

3 目指すべき交通体系の将来像

3 - 1	目指すべき将来都市像の実現にむけて……………	28
3 - 2	まちづくりのコンセプト……………	29
3 - 3	基本方針……………	30
3 - 4	目指すべき交通体系の将来イメージ……………	33
3 - 5	基本理念……………	36

3-1 目指すべき将来都市像の実現に向けて

本戦略では、現状の交通問題や課題を解決するための「需要追随型」の方策を立案するのではなく、目指すべき将来都市像を実現するために必要となる交通施策を戦略的に展開する、「目標達成型」の方策を立案するものとします。

そのため、社会的な背景に加え、都市づくりの方針となる「高槻市都市計画マスタープラン」に基づいて、以下のとおり目指すべき将来都市像を整理しました。

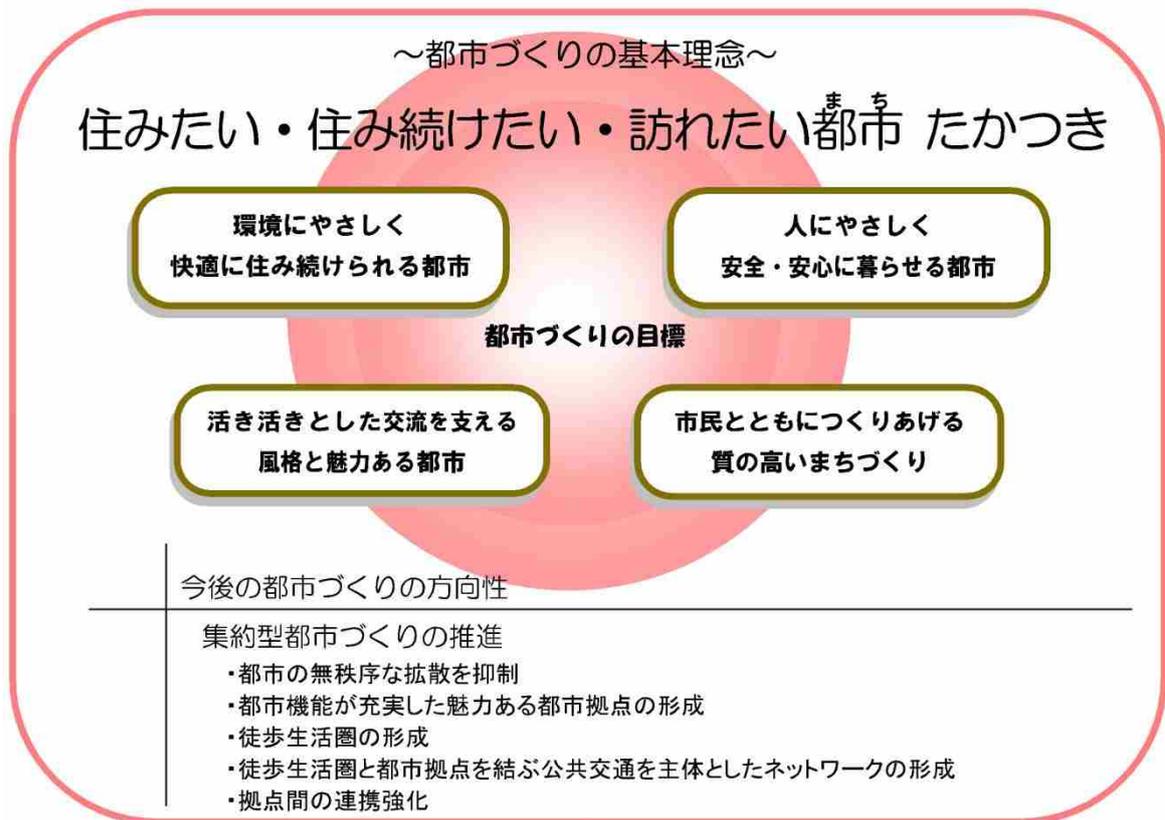


図 3-1 高槻市都市計画マスタープランにおける目指すべき将来都市像

3-2 まちづくりのコンセプト

「高槻市都市計画マスタープラン」では、都市づくりの目標を実現するために、「集約型都市づくり」の推進が必要であるとしています。

「集約型都市づくり」とは、都市機能を都市拠点や生活拠点にコンパクトに集約し、公共交通等によるネットワークで結ぶ「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」により、居住環境やにぎわいと活力、市民の交通利便性などの向上を目指すことをいい、本戦略でもこの「集約型都市づくり」の考え方を踏まえるものとします。

なお、全国的にも、今後の人口減少社会の中で地域の活力を維持し、安全・安心なまちづくりを進めるため、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」が進められようとしています。

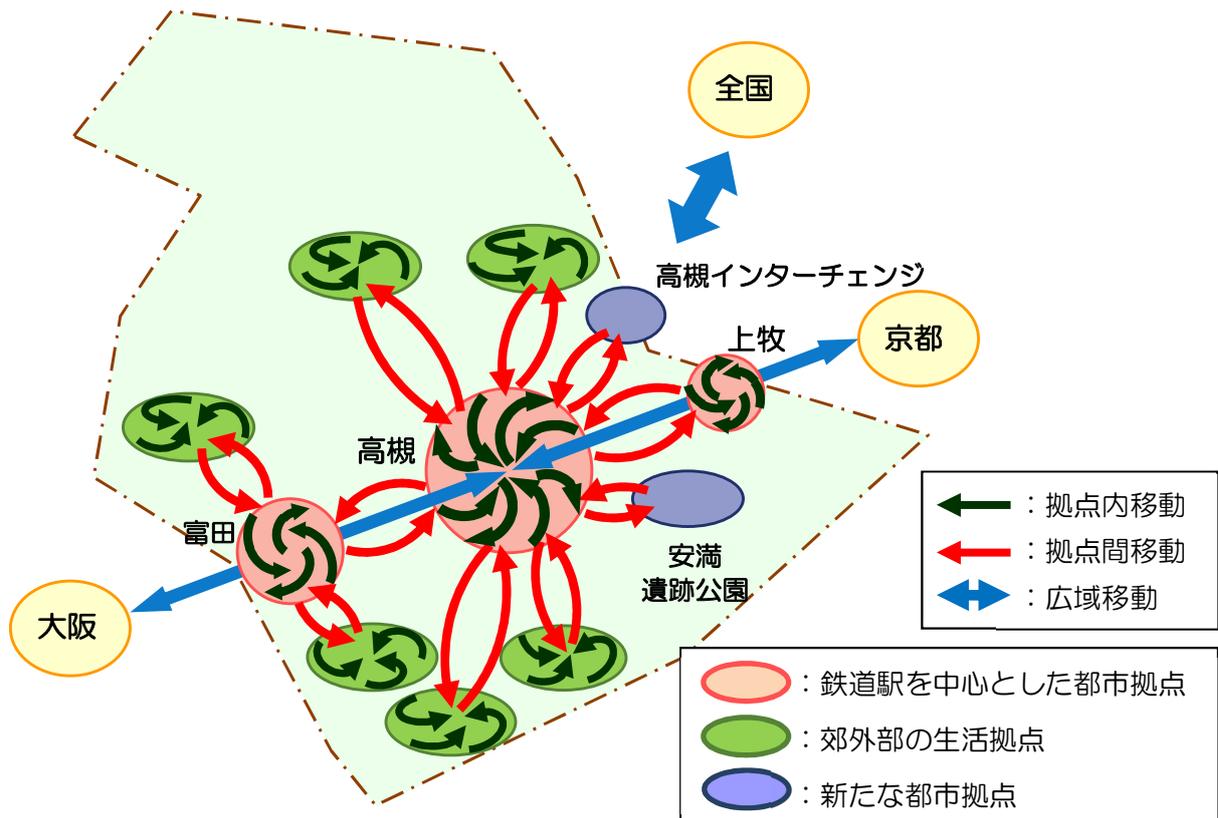


図 3-2 コンパクトシティ・プラス・ネットワークによる対流*の促進

コラム 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」とは

国土交通省では、平成 26 年 7 月に「国土のグランドデザイン 2050～対流型国土の形成～」を策定し、2050 年を見据えた地域づくりの考え方のキーワードとして、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を示しています。

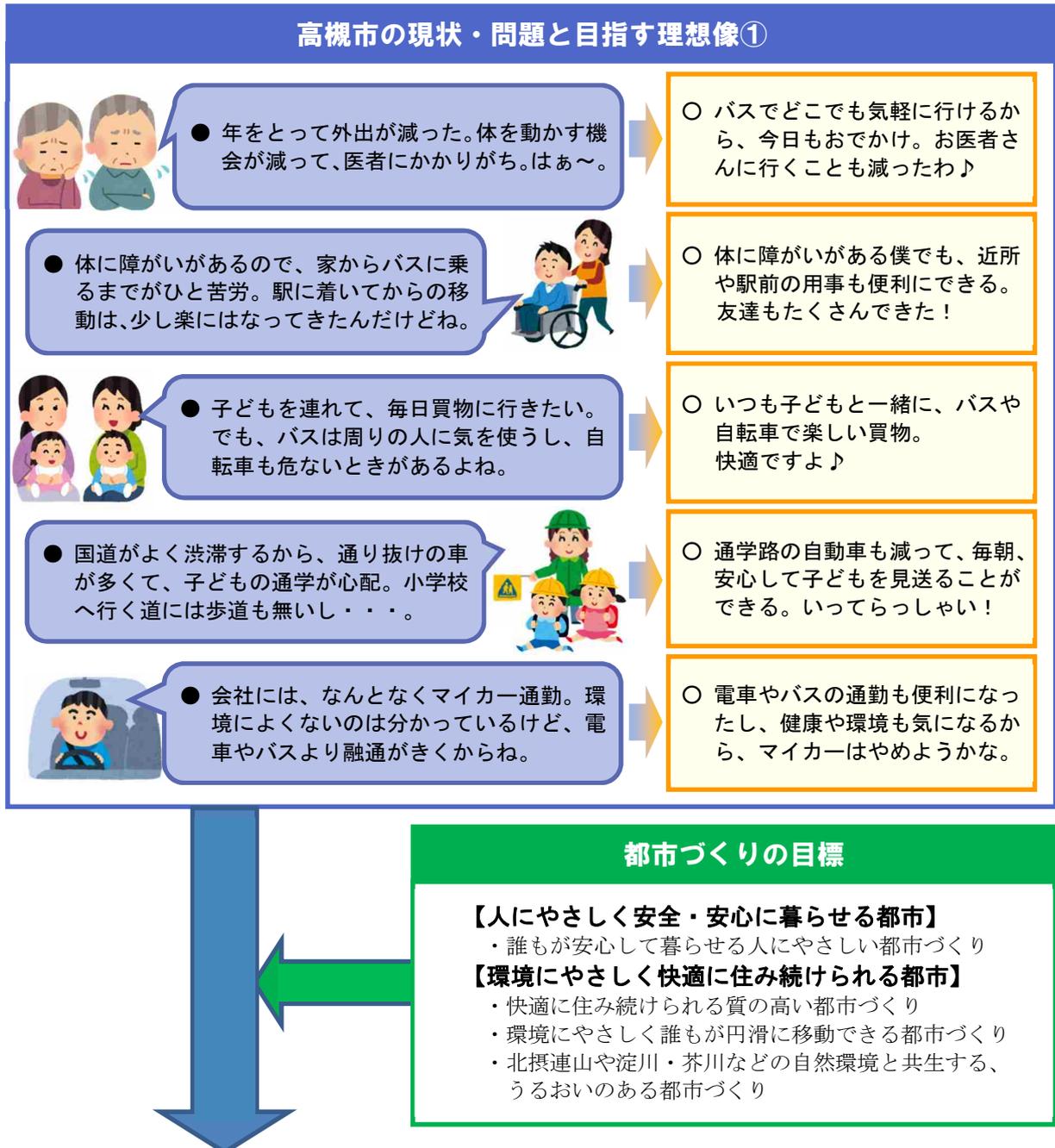
その後、平成 26 年 8 月に「都市再生特別措置法の一部改正法」、11 月に「地域公共交通活性化再生法の一部改正法」がそれぞれ施行され、人口減少・高齢化が進む中、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直す「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えのもと、地域公共交通ネットワークを確保することが重要としています。

また、平成 27 年 8 月閣議決定の「新たな国土形成計画（全国計画）」において、「対流」とは、多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携して生じる地域間のヒト、モノ、カネ、情報の双方向の活発な動きとしており、それ自体が地域に活力をもたらすとともに、イノベーションを創出するものとしています。

3 目指すべき交通体系の将来像

3-3 基本方針

本市の目指すべき将来都市像を踏まえ、現状・問題と目指す理想像を整理し、以下のとおり本戦略の基本方針を定めました。



総合交通戦略の基本方針1

36万市民の健幸な暮らしを支える交通

コラム 「健幸（けんこう）」とは

個々の人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことをいいます。自律的に「歩く」を基本とする『健幸』なまち（スマートウェルネスシティ）の構築にむけて、全国で「健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区」が指定される等、健幸をキーワードにしたまちづくりが進みつつあります。

高槻市の現状・問題と目指す理想像②



● 駅前の商店街に来たけど、自転車とぶつかりそうになった。ゆっくり買物できません。

○ 駅前の商店街が歩きやすくなったから、子どもやおばあちゃんと買物に行く機会が増えて、ついつい長居しちゃうわ♪

● 子どもを連れて、京都の実家に行きたいけど、駅や駅前は歩みにくいし、ベビーカーを押すのも大変。



○ ベビーカーを押して、駅前を歩いてもすごく安心。また実家に帰りたいなあ♪



● 電車で高槻まで遊びに来たけど、駅からこの先どう行けばいいのか分からないなあ？

○ 初めて電車で高槻に来たけど、バスや自転車で楽しく回れた！今度は摂津峡に遊びに来よう！

● 海外旅行で関西空港に行くけど、高槻からって、車でも電車でも少し不便ね。



○ 車、空港バス、特急「はるか」。いろいろ便利になって、何で行こうか迷っちゃう。



● 高槻の工場からは、茨木や大山崎のインターまで行かないといけないんだよね。ちょっと不便。

○ 近くに高槻インターができ、いろいろなルートで高速に乗れるようになった！

都市づくりの目標

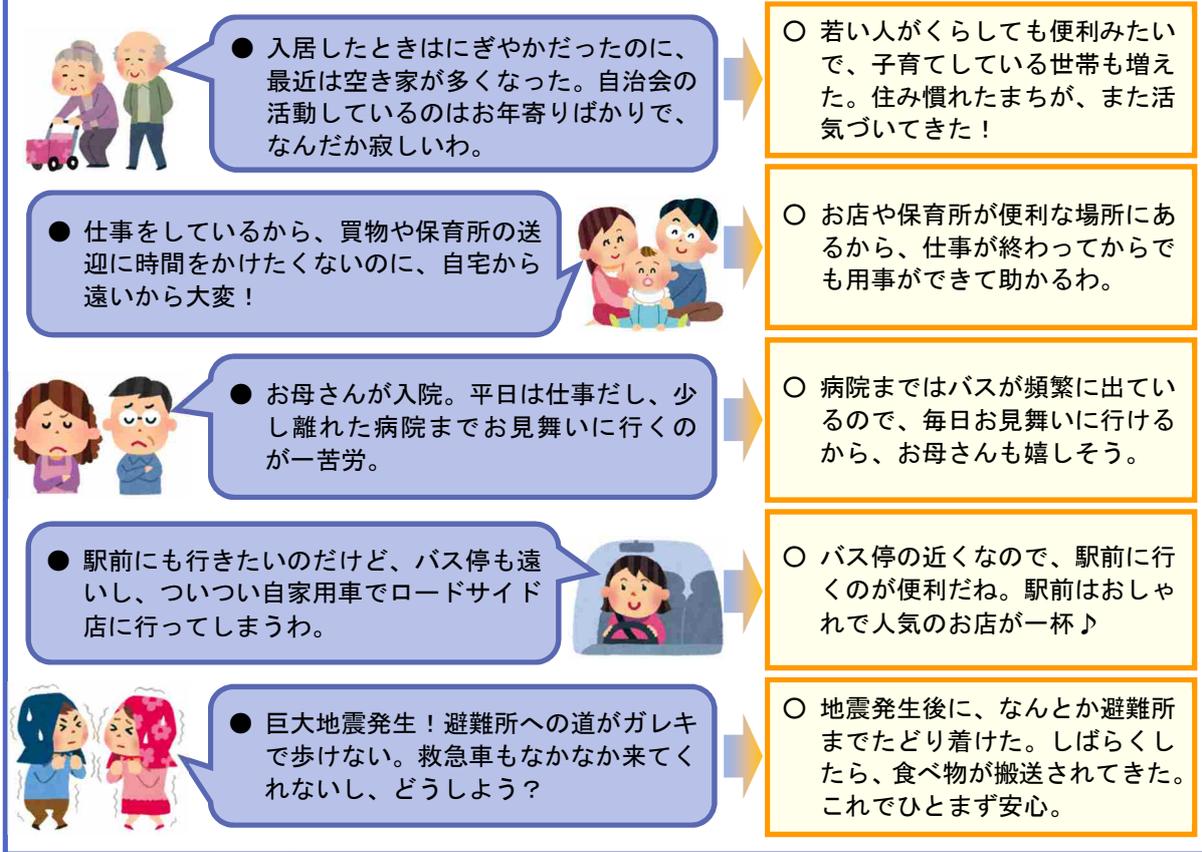
【生き生きとした交流を支える風格と魅力ある都市】

- ・ 交流とにぎわいある都市づくり
- ・ 地域特性を活かした風格と魅力ある都市づくり
- ・ 新名神高速道路の供用を契機とした経済活力を高める都市づくり

総合交通戦略の基本方針2

駅周辺のにぎわいと新たな都市拠点の発展を支える交通

高槻市の現状・問題と目指す理想像③



都市づくりの目標

【集約型都市づくりの推進】

- ・都市機能が充実した魅力ある都市拠点の形成
- ・徒歩生活圏と都市拠点を結ぶ公共交通を主体としたネットワークの形成

【人にやさしく安全・安心に暮らせる都市】

- ・地震、水害など災害に強い安全な都市づくり

総合交通戦略の基本方針3

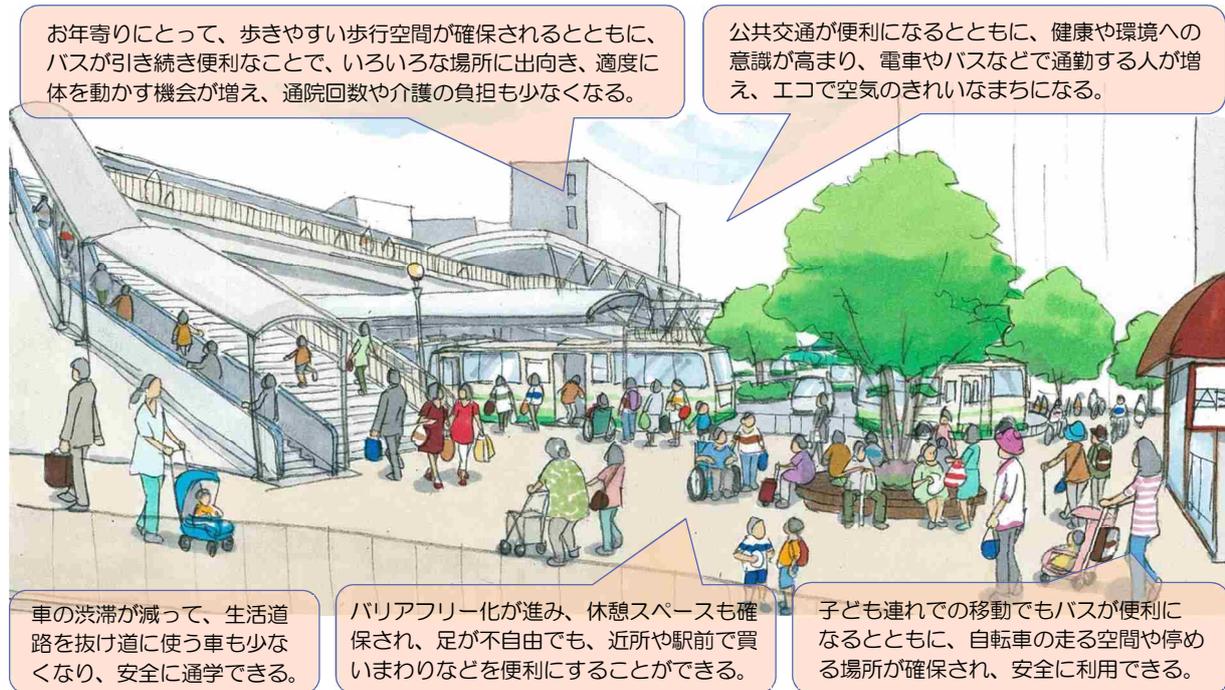
コンパクトで持続可能なまちを支える交通

3-4 目指すべき交通体系の将来イメージ

都市づくりの目標や本戦略の基本方針に基づき、本市における目指すべき交通体系の将来像として、以下の将来イメージを示します。

基本方針1 「36万市民の健幸な暮らしを支える交通」の将来イメージ

～高槻36万人の市民が、生涯にわたり健康で幸せに（健幸）くらせるまちに～



高槻36万人の市民が、生涯にわたり、健康で幸せに（健幸）くらせるまちに。

誰しも、健康で、生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送りたいもの。

歩きやすくバリアフリー*な歩行空間が確保され、また、バスが便利なことで、いろいろな場所に出向いて、適度に体を動かす機会が増えることで、医者にかかることも少なくなります。

健康や環境への意識が高まることで、電車やバスなどで通勤する人が増え、車の渋滞が減って、エコで空気がきれいで安全なまちになります。

お年寄り、子ども連れ、障がいのある人など、どんな人でもやさしく安全・安心にくらせるように、交通が支え続けます。

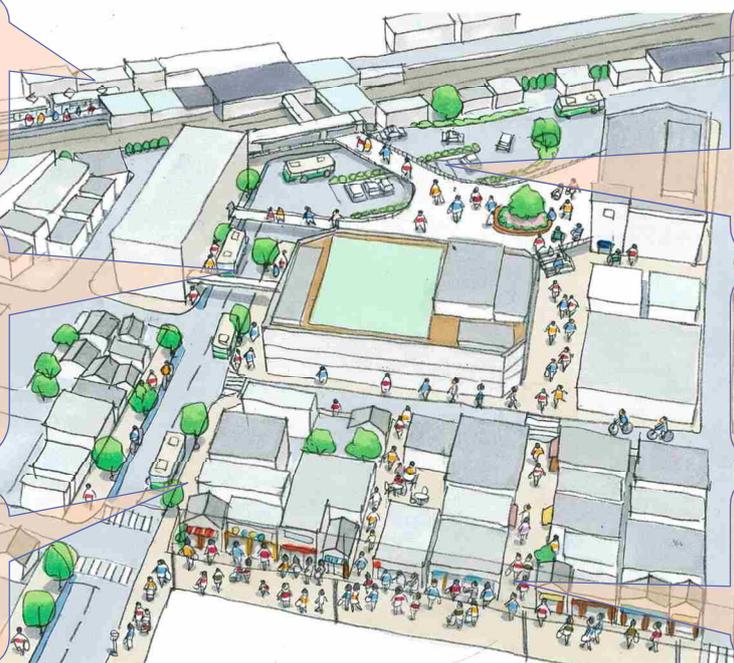
基本方針2「駅周辺のにぎわいと新たな都市拠点の発展を支える交通」の将来イメージ

～高槻の顔となる拠点が、にぎわいあふれ、魅力あるまちであり続けるために～

特急「はるか」が停車し、高速バス等も充実することで、空港や他都市を結ぶ交通が便利になって交流が進む。

初めて電車で高槻に来た人も、情報提供が充実しているため、市内のいろいろなところにバスや自転車でスムーズに行ける。

バスや自転車で駅前にアクセスしやすくなることで、人が集まり、駅前がますますにぎわう。



より安全で利用しやすい交通結節点により、乗り継ぎがスムーズになり、ますます、大阪や京都との交流が増える。

身近な場所にインターチェンジができ、アクセスも便利だから、企業活動も盛んになる。

歩く人が安全で快適に通行でき、駅前商店街で毎日の買物がゆっくりできる。

高槻の顔となる拠点が、にぎわいあふれ魅力あるまちであり続けるために。

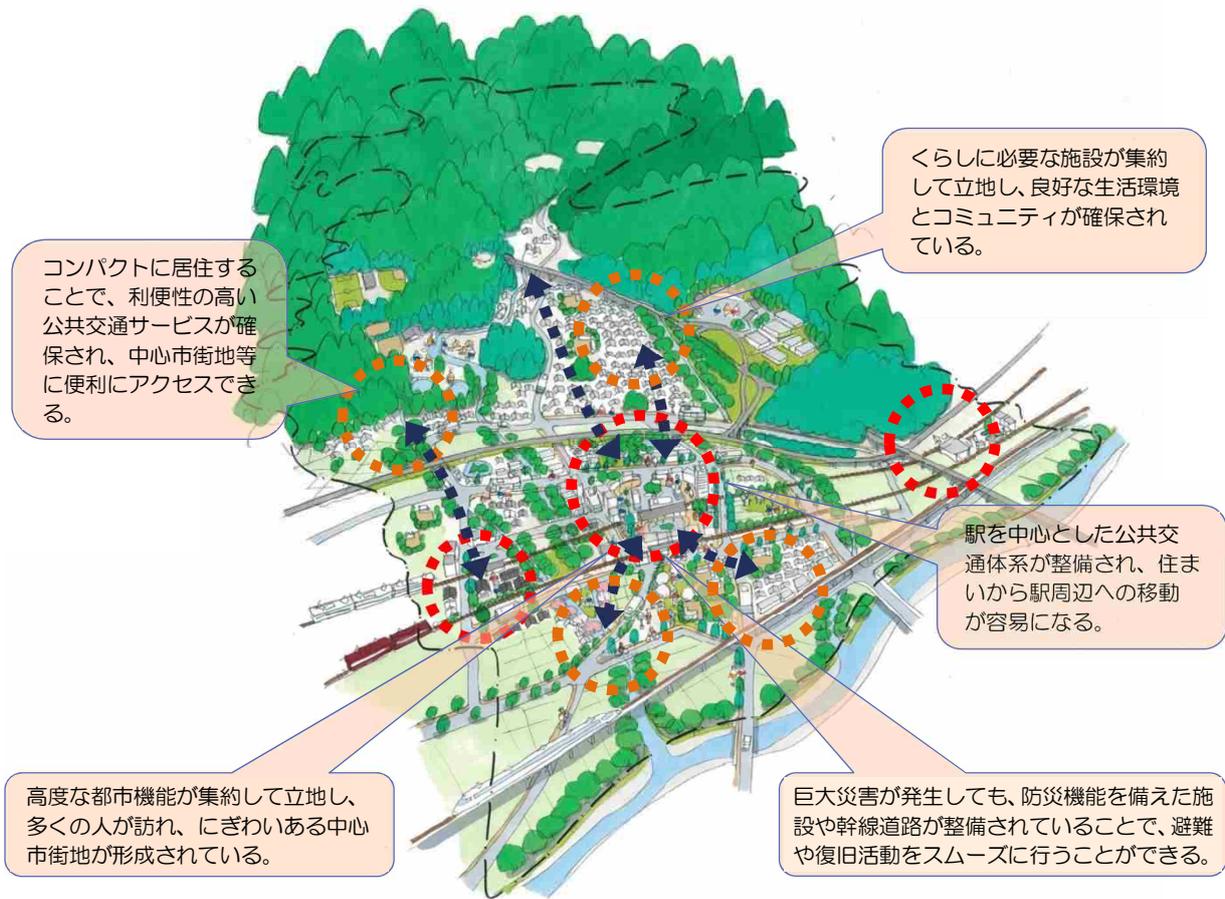
駅前の空間が、安全で快適に歩行でき、市内のいろいろなところへバスや自転車、自動車アクセスしやすくなれば、人が集まり、ますますにぎわいます。

新たな都市拠点ができると、人やモノの交流拠点が形成されます。

人が集まれば、他都市と結ぶ交通も便利でスムーズになって、駅や新たな都市拠点を中心に、ますます人やモノの交流が増えて、高槻の魅力が向上していきます。

基本方針3「コンパクトで持続可能なまちを支える交通」の将来イメージ

～充実した市民の暮らしを住まい方と交通で支え続けるために～



充実した市民の暮らしを住まい方と交通で支え続けるために。

住んでいる人の世代が移り変われば、ライフスタイルも変わるもの。

暮らしに必要な施設が集約して立地し、公共交通で便利にどこにでも行くことができれば、忙しい若い世代の生活ニーズに応えることができるとともに、多くの人が集まり、まちの活力が増します。

また、地域の実情に応じて、地域の人を使いやすい交通サービスを考え、これを実現していくことで、くらしやコミュニティを支えます。

巨大災害が発生しても、避難や復旧活動をスムーズに行うことができるように、交通ネットワークの面から支えます。

3-5 基本理念

本市は、鉄道やバス等の交通利便性の高さを強みに、大阪・京都のベッドタウンとして発展してきました。

このような中、本市の都市づくりの基本理念「住みたい・住み続けたい・訪れたい都市 たかつき」を実現するためには、前述した3つの基本方針に基づく取組を進める必要があります。これに合わせて、市民・交通事業者・行政が協働し、まちづくりと連動した交通体系の維持・発展、利便性の向上を図る「交通まちづくり」に取り組むことで、あらゆる世代がいきいきと健幸に住みやすいまちが形成され、それが定住促進や来訪者の増加につながり、まちのにぎわいと発展に資することが期待できます。さらに、充実した交通ネットワークの形成が、コンパクトで持続可能なまちづくりへと展開されます。

そこで、本戦略の基本理念を以下のとおり決めました。

基本方針1

36万市民の健幸な暮らしを支える交通

基本方針2

駅周辺のにぎわいと新たな都市拠点の発展を支える交通

基本方針3

コンパクトで持続可能なまちを支える交通

【基本理念】

「交通まちづくり」による
住みやすさナンバーワンのまち高槻

図 3-3 基本理念と基本方針

「交通まちづくり」とは

人口減少や超高齢社会が本格的に到来する中、全ての市民、とりわけ、高齢者、外出困難者、子育て世代といった皆さんが生活し社会活動を営むためには、円滑に移動できる交通環境が重要になります。

日常生活の中で欠かすことのできない移動を、より安全・安心に、そして、より使いやすいものとしていくため、交通の面からまちづくりについて知恵を出しあい、市民の皆さんと共に協働して実現を進めることが「交通まちづくり」です。

「交通まちづくり」を推進するためには、市民・交通事業者・行政がお互いに協力し連携するとともに、環境や健康といったことも含め幅広く考えて取り組んでいくことが重要となります。